

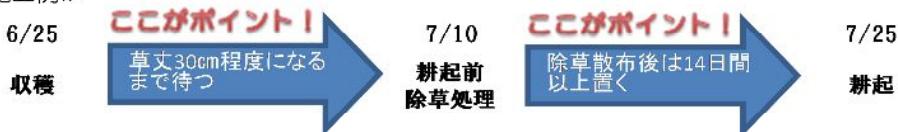
草地更新時の除草処理

今年度もJA道東あさひ管内では各種事業を活用し、数千haの草地更新が予定されており、8月の今現在で施工繁忙期に入っています。今年度からJA事業にて表層攪拌を行う場合には除草処理をセットとしておりますので更新時の除草処理方法について紹介します。なお、以下の方法は完全更新、表層攪拌更新に適用されます。(耕起前除草処理は作溝法、穿孔法にも適用)施工例を参考に播種時期から逆算して作業を行ってください。

① [耕起前除草処理]

草地更新前に除草剤で既存植生を枯殺する手法。グリホサート系の除草剤(ラウンドアップやクサトリキングなど)を用いて、主にリードカナリーグラスやシバムギなどの地下茎イネ科雑草に効果的とされる。しかし、実生の雑草(ギシギシやアザミなど)のリスクは伴う。

«施工例»



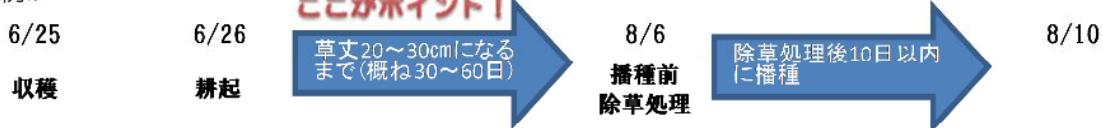
POINT

- 収穫から耕起前処理までに草丈が30cm程度になるまでには天候等が大きく影響しますので、圃場を確認しながら除草のタイミングを計ってください。
- 堆肥やスラリー散布は耕起前除草後に実施することを推奨します。(スラリーなどが葉へ付着すると除草剤の効果を低下させる場合があります。)

② [播種前除草処理]

播種床までを作り、30~60日程度放置し、土中にある雑草の種子を発芽させ、播種は除草処理の同日または10日以内に行う。ギシギシなど広葉雑草対策として有効とされる。なお、除草処理のタイミングが重要であると共に播種時期の遅延や泥炭土壤では利用できないため、留意する必要がある。

«施工例»



POINT

- 耕起から播種前処理までに草丈が30cm程度になるまでは約1ヶ月~2ヶ月を要します。(天候などが大きく影響します。)圃場を確認しながら除草のタイミングを計ってください。

③ [2回除草処理]

上記①と②を両方実施する手法。除草処理としては一番効果的とされる。一方で、収穫から播種までに約2ヶ月を要するため播種時期に最も考慮する必要がある。

«施工例»



POINT

- 収穫から耕起前処理までと耕起から播種前処理までの期間において、草丈が30cm程度になるまでには一定の期間を要します。(天候等が大きく影響します。)圃場を確認しながら除草のタイミングを計ってください。2回除草処理の場合は播種時期を考慮し、早めの収穫及び高刈りを推奨します。